

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

公表: 令和 3 年 1 月 13 日

アンケート期間: 令和 2 年 11 月 1 日～令和 2 年 12 月 30 日

事業所名 おひさま教室

保護者等数(児童数) 34人 回収数 17人 割合 50 %

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	10	4	1	2	・三輪車などの他の遊びもあれば嬉しい。(笛ぼっくりやなわとびなど)	児童の成長や環境の変化に合わせて、順次用具を揃えていく。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	13	3		1	・スタッフが取得している資格や専門性が保護者にもう少しわかるよう発信してほしい。	定期的に職員の資格等が分かるよう、伝達手段を考え取り組んでいく。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	9	5		3		
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	15	1		1		
	5	活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	15	1	1			
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	4	2	7	・学校でも交流があるので必要ないかも ・公園での交流がありがたい。	今後も児童に合った活動内容を促し、状況に応じて地域の子どもの関わりを機会を設けていく。
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	15	2				
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	15	2				
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	12	4	1			
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	5	8	2	・個人情報の事もあるので必要なだけにしてほしい。	現時点では必要とする声あまり上がっていないが、必要に応じて対応、検討していく。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	15	1		1		
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	14	2		1		
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	5	5	1	6		
14	個人情報に十分注意しているか	14	1		2			
非常時 等の 対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	12	3		2		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9	1		7	・職員の中でシュミレーションが出来るか	定期的に避難訓練等は行っているが、一部職員や比較的使用頻度の少ない児童に対しては訓練が行き届いていないので、全体が有事に備えられるよう検討、対応していく。
満足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	15	2			・行ける日は嬉しそうにしている。 ・学習、運動、遊び、お手紙など様々な活動をしていただき、親子共に満足している。	
	18	事業所の支援に満足しているか	14	2		1	・個別に対応してもらいとても満足している。	引き続き個別対応が行えるよう努めると共に、スタッフ1人が質の良い支援が行えるよう、研修やフォローアップに努めていく。

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 3 年 1 月 8 日

公表: 令和 3 年 1 月 13 日

事業所名 おひさま教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1		○	活動スペースは限られているが、別室や屋外での分散活動をしている。	雨の日は屋外での活動が制限されるため、そのような状況でもゆとりをもって活動できるよう環境整備を行う。
	2	○		マンツーマンかつ適切な支援が行える支援者を配置している。	
	3	○		手すりやスライドドアの設置など、順次課題点を改善している。	今後も使いにくい、過ごしにくい点があれば、順次改善していく。
業務改善	4	○		職員間で話し合い、それぞれの課題点の改善提案、目標設定を行っている。	一部の職員は時間の都合で行えていないので、幅広く対応できるよう努めていく。
	5	○		全てではないが、なるべく保護者の意向を業務改善に反映出来るよう取り組んでいる。	
	6	○			
	7		○		
適切な支援の提供	8	○		社内、社外研修を積極的に行っている。	一部職員は時間の都合等で研修に参加出来ていないので、その都度機会を設けて促していく。
	9	○			
	10	○			
	11	○		それぞれの児童をよく担当するスタッフから話を聞き、個別支援計画書を基に活動内容を考えている。	
	12	○		季節ごとに内容を工夫し、児童達の一番安全で楽しめる内容にしている。	
	13		○		
	14	○			
	15		○	必ずではないが、打ち合わせは積極的に行っている。	最低限必要な連絡事項や注意点などは今後も打ち合わせを行っていく。
	16		○	全ての振り返りは難しいが、情報共有を行うよう努めている。もしくは日を改めて行っている。	
	17	○		お手紙、経過記録などを活用している。	
	18	○			
	19	○			

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者、管理者が会議に参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		主に送迎時に確認し、学校の授業見学などで情報共有を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	保護者とはすぐ連絡が取れるようにしているが、主治医等は連絡を取ることがない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する例が少ない。また卒業後に利用できる施設の情報を把握出来ていないので、相談支援専門員などを通して連携出来るよう努めていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		研修の機会があれば参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		地域の子ども達と様々な遊びを通して、交流している。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		これまで参加していたが、コロナの事もあり、参加する機会が減っている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		お手紙や送迎時に日頃の様子を伝え、お互いに情報交換をしている。	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明を行い、不明な点はその都度説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		各対応マニュアルを策定している。	各対応マニュアルを保護者に周知しきれていないので、伝達出来るよう取り組む。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		火災訓練、避難訓練を定期的に行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		契約の際に説明を行う。 現在、身体拘束を要する児童はいない為、計画書には記載していない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		サポートブックなどを活用し、職員全員で共有、対応をしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			